

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	千葉大学	整理番号	1903
プログラム名称	革新医療創生 CHIBA 卓越大学院		
プログラム責任者	中谷晴昭	プログラムコーディネーター	斎藤哲一郎

### (評価決定後公表)

<p>(総括評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。</li> <li>□ A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。</li> <li>□ B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。</li> <li>□ C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。</li> <li>□ D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。</li> </ul>
<p>[コメント]</p> <p>大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、学長主導で進める大学院改革の中で、このプログラムがよく活用され機能している。国内外の多くの研究機関と学内部局を融合する「クラスター制 CHIBA 教育システム」をコアとする指導体制が確立している。医薬理工文の融合領域で形成された6クラスター26ユニットの中から3ユニットを選ぶ演習や「トリプル指導教授制」により異分野の指導を受けることで、ダブルメジャー相当の研究者が多くの実績をあげている。</p> <p>修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、高い競争率の中、採用された少数精鋭の学生は、自らの考えで、融合領域で構築された体制を活かし、既に共同研究やプロジェクト、受賞などで様々な研究業績をあげている。共同研究の相手先は、融合領域のため多岐にわたり、そのことがキャリアパスの選択肢を学生に与えることにつながっている。これまでの分野融合の事例やキャリアパスなど、本プログラムの具体的な成果を、在学生や志望者にわかりやすく伝えることが、いっそうの実績につながると考えられる。</p> <p>高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、国内外の高水準の研究機関や企業の教員により、融合領域での指導を受けられる体制が構築され、学生は自らそれをよく活用している。大学院改革の基本的な考えがはっきりしているので、プログラムの関係者の共通理解を得て進めることができている。ただし、医学系以外の専攻の学生にとっては、修士課程と博士課程で所属専攻が変更になるという仕組みが学生にとってハードルになっていないかについて検討が必要である。</p> <p>優秀な学生の獲得については、高い倍率で、少数精鋭の優秀な学生が採用できている。経済的支援もベースの部分と評価により増額する部分とが明確に示されていてわかりや</p>

すい。今後、定員増や、博士課程から編入などの改善策を実施する中で、現状の高いレベルが維持できるように、国際評価や学生ポートフォリオなどの質保証のしくみについて、より一層の活用が期待される。

世界に通用する確かな質保証システムについては、選抜試験や QE の評価項目が明示されており、学外や海外の評価者が参画して評価を行っている。ポートフォリオを通じた学生の成長の確認とそのフィードバックも行われている。ただし、コロナ禍の影響もあって「国際コース」（UC San Diego とのダブルディグリーコース）がいまだ実質的に稼働していないように見受けられ、システムの学生への周知と高いハードルを乗り越えるための支援を含め積極的な推進が求められる。

事業の継続・発展については、本プログラム関連部局の外部資金は、共同研究費、受託研究費ともに大幅に増額しており、補助期間終了後に教育研究等に使用できる資金のめどが立ってきている。